



IAIA
International Association
for Impact Assessment

スコーピングはインパクトアセスメントで評価すべき重要な項目を選定する作業である

著者

Environment Institute of
Australia and New Zealand
Special Interest Section on
Impact Assessment

和訳：浦郷昭子

FASTIPS

No. 18 | November 2018

スコーピング Scoping

スコーピングは、事業に関係する課題を特定し、優先順位をつけ、それぞれの項目がインパクトアセスメント(IA)でどの程度調査・検討すべきかを定める手続きである。

スコーピングは、事業が引き起こす可能性のある大きな影響に着目し、影響の大きさに応じた調査を決めることになるため、重要な作業である。スコーピングでは以下のことを考慮する。

- 影響を受ける自然的・文化的・社会的環境の脆弱性・質・価値
- 与えるインパクトの程度(大きさ・頻度・期間)
- インパクトを受けることによってもたらされる環境の変化・結果
- インパクトによる結果や変化を受けた環境要素のレジリエンス(回復力)

スコーピングは、意思決定者が事業を認可するかどうか、認可にあたりどのような条件を付けるかを判断する際に参考とする項目に焦点を当てる。

スコーピングによって、事業者はIAに必要な作業を確実に開始することになる。またスコーピングは、IAの仕様書(TOR)に多すぎる情報を加える事態を避け、事業計画を大きく変更することを制限する。

望ましい形のスコーピングは以下のようなものが明記されている

- 事業の理由と目的の説明
- 実現可能性のある複数の代替案
- 事業に関連する法律、規則、基準、政策、ガイドラインなど
- 主なステークホルダーと彼らの関心事。IAの手続きの中で、これらステークホルダーがどのようにかわるのか
- ステークホルダー協議の手順の大筋
- 調査すべき環境影響(以下のものを含む)
 - 物理環境システムへの影響
 - 生態環境システムへの影響
 - 社会システムへの影響
 - 考古学的・文化的影響
 - 土地利用への影響
 - 経済的影響
- 影響評価やリスク評価に用いる方法

スコーピングを含むIAでは、不確実なことにも対処する。例えば、スコーピングの段階では、まだ現況環境調査や社会調査が行われていないか、行われていたとしても不十分なものであるため、影響を受ける物の価値を判断できない。IAでシミュレーションモデルを使う際は、推定したパラメータしか使えないこともある。提案されているミティゲーションに効果があるのかも不確実である。

スコーピングで不確実な事象を扱う際、リスクアセスメントのツールが使われることがある。リスクアセスメントツールは予期できない事象の結果と発生確率を検討する。スコーピングでリスクアセスメントツールを使うことで、IAで検討すべきすべての事象が言及されるようになる。

なぜスコーピングが重要なのか?

スコーピングはインパクトアセスメント(IA)を意味のあるものにするうえで重要な作業であるが、常に適切に行われているわけではない。スコーピングが不適切な場合、以下のような問題が発生する。

- 必要のない情報やデータがあつめられて、IAの効率・効果が下がり、時間と資金が無駄になる
- 影響の大きな項目が選ばれない、もしくは強調されない場合、
 - IAが意思決定に寄与する割合が低下し、
 - IAがステークホルダーやコミュニティの心配に適切に応えられない。
- アセスメント手続きが遅延する
- IAにかかるコストが増す

FURTHER READING

IAIA FastTips “Impact Assessment,” 2012. www.iaia.org/uploads/pdf/Fasttips_1%20Impact%20Assessment.pdf

Barnes, Hardwick, and Chan, 2010. “IAIA10 Conference Proceedings: The Role of Impact Assessment in Transitioning to the Green Economy.” 30th Annual Conference of the International Association for Impact Assessment. 6-11 April 2010, International Conference Centre, Geneva, Switzerland.

Fischer, T.B., and Philip-Jones, J., 2008. “Scoping in environmental assessment” in Fischer, T. B., Gazzola, P., Jha-Thakur, U., Belcakova, I., and Aschemann, R., (eds). *Environmental Assessment Lecturers' Handbook*, ROAD Bratislava, 136-142.

Institute of Environmental Management & Assessment, June 2011. “The State of Environmental Impact Assessment Practice in the UK.” Special report.

EIANZ Special Interest Section (SIS) on Impact Assessment (IA).

“Good practice scoping in impact assessment,” 2016. www.eianz.org/document/item/3302

International Association for Impact Assessment, 2009. “What Is Impact Assessment?” Special publication. www.iaia.org/uploads/pdf/What_is_IA_web.pdf

Western Australia EPA, June 2018. Statement of Environmental Principles, Factors and Objectives. <http://www.epa.wa.gov.au/statement-environmental-principles-factors-and-objectives>

知るべき五つの重要なこと

1. スコーピングは、提案された事業と社会的・法的状況を勘案し、IAで検討すべき重要な項目を選び出す作業である。
2. IAの最初の段階でスコーピングが効果的に行われた場合、スコーピングはその後のIAの作業をうまくガイドしていく。
3. コミュニティー・規制機関を含む重要なステークホルダーと早い段階からしっかり関わることは、重要な項目を選定するうえでとても重要である。
4. 効果的なスコーピングによって、メリハリの利きより正確なIAが実現でき、不確実な部分を減らすことができる。
5. スコーピングは、リスク分析の観点から行う作業である。環境に影響を与えるかもしれないリスクのレベルが、より深いアセスメントを必要とする程かどうかに基づき、スコーピングの判断が行われるべきである

実行すべき五つの重要なこと

1. 事業が提案された背景について、環境的・制度的・組織的枠組みから理解することが重要である。
2. 大きな影響を与える可能性のある影響評価が必要な項目だけに集中すること
3. スコーピングをうまく行うため、適切な時間と資金を与えること。良いスコーピングができれば、より効果的で効率的な影響評価につながる。
4. IAで評価すべき項目を選定する際、主なステークホルダーとコミュニティの意見を聞くこと。意見を聞く際は、文化的に無理がない方法で、影響を受けるコミュニティの希望に合うよう調整して行うこと。スコーピングプロセスでは、伝統的知見を有する先住民や地元民とも敬意をもってかかわること
5. 別の観点から事業を審査する他の機関と調整し、事業評価の重複を少なくすること。

Want to know more?

www.iaia.org/fasttips.php

Do you have a suggestion or a request for a FasTip on a different topic?
Contact Maria Partidario (mpartidario@gmail.com), FasTips Series Editor.
FasTips Task Force: Maria Partidario (Chair), Charlotte Bingham, Peter Croal, Lea den Broeder, Richard Fuggle, Raphael Mwalyosi, Julia Nowacki.